

中学校の学校図書館から

牛込第二中学校 1 年生の学校図書館オリエンテーションを見学させていただきました。バドミントンの本とドイツの物語の分類を問うと、即座に「7 類」「943」と答えられました。学校図書館活用のスキルが身につけてきていることが感じられました。

また、多くの中学校で、図書委員会のお薦めの本が展示され、選書の良さに感心させられます。

読書に親しむことはもちろん、より多くの生徒が、学校図書館を活用したり、教養を身に付け成長の糧となるような本にも手を伸ばしたりするようになってきたと思います。



今年もアンケートの時期になりました

今年も「児童・生徒の学校図書館活用及び読書活動等に関する調査」を行います。実施期間は、10 月 27 日～11 月 24 日ですので、すでに各学校に届いていると思います。

昨年度の調査では、朝の一斉読書等の取り組みで、99.7%の児童・生徒が読書をしていました。今年度は、さらに、「この 1 か月間で、学校の図書館の本（図鑑や辞書も入ります）を使って、調べたり勉強したりしましたか。」「この 1 か月間で、先生や図書館の先生にすすめられたり、紹介されたりした本を読みましたか。」の項目に注目です。「教育課程の展開に寄与する」「児童又は生徒の健全な教養を育成す



る」という学校図書館法に定められた二つの目的と深く関連する項目です。

秋は、大きな学校行事がある学校も多いと思いますが、読書の秋でもあります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

次期学習指導要領に向けた審議のまとめについて（報告）から

「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめについて（報告）第 1 部」の学校図書館に関する記述から紹介します。（傍線・太字加工は、学校図書館アドバイザー）

読書活動についても、**量的には改善傾向にあるものの**、受け身の読書体験にとどまっており、著者の考えや情報を読み解きながら自分の考えを形成していくという、能動的な読書になっていないとの指摘もある。教科書の文章を読み解けていないとの調査結果もあるところであり、文章で表された情報を的確に理解し、自分の考えの形成に生かしていけるようにすることは喫緊の課題である。**趣味のための読書にとどまらず、情報を主体的に読み解き考えの形成に生かしていく読書（インタラクティブ・リーディング）の重要性が指摘されている**ところである（P.5）

「主体的・対話的な学び」の充実に向けては、**読書活動のみならず**、子供たちが学びを深めるために必要な資料（統計資料や新聞、画像や動画等も含む）の選択や情報の収集、教員の授業づくりや教材準備等を支える学校図書館の役割に期待が高まっている。公共図書館との連携など、地域との協働も図りつつ、**その機能を充実させていく**ことが求められる（P.49）

アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善と、教育課程内での学校図書館活用は深く結びついていると言えます。